忘却への抵抗／差異の承認

松本和也

ー 181ー
デにも断絶された存在であり、そうした分断線を個人の内

部にまで抱え込まれた存在であると言えるであろう。こ

うた「在日朝鮮人」をめぐる諸条件は、「焼肉ドライ

クストを想起している。同時期の韓国における民主化運動に

ふれた後、「在日」タイプの朝鮮人を総称するだけでなく、とりわけ、若い
世代の生きを示す一定の思想やアイデンティティを含むものとして認識され

た。「在日」は再評価されて、日本と南北朝鮮の若者の国日や親を願う

という動向が見られ、N地区は「大朝鮮人集落」となったのだ。

右は、「焼肉ドライク」冒頭部に示された書き方である。「在日」を

高知経済成長を遂げつつある日本のネガティブは、いわば「もう一つの
時空」に位置づけられていく。そのことは、観客の読者を世界へと誘って
いく役割を担う。金時生による開幕直後の次のモノローグにも

「焼肉ドライク」の空間設定に

あるのだ。このことから、次のような「焼肉ドライク」の空間設定に

時代の流れから「目と鼻の先に飛行場があるんです。飛行機が通るた

時に住む人びとの生を浸食、圧着していくという、みえにくい

権力が構造的に作用する。町で、金家をめぐる物語は展開され
ていくのだ。初演時には、次のような劇評が出ており、示唆的で

ある。

横断系「キムチ版三人姉妹」の趣がある結婚や不倫の恋愛模

様。歴史ともいうべき縦線系が、戦争の傷を今も抱える父、

たくましい母の苦しみと喜び。四季の移ろいを背景に、自殺
本稿は、右の「横経」、「縦経」といった指摘を採用せず、戦線を組にして、「焼肉ドラゴン」の方法論を中心に読み進むことを目指す。「焼肉ドラゴン」の方法論を中心に読み進むこと"
哲男  
就職差別の壁は厚いです……頭を下げてこめん

哲男  
金僕の叫びは、おれの叫びや。

哲男  
金僕の叫びは、おれの叫びや。
関われるシリアスな話題と軽妙さを再びする働きをしていることになる。

こうした哲男が梨花の不実をこぼす相手は、梨花の姉・静花である。もちろん、静花にしても梨花にしても、恋愛はすぐれて現在の足が折れなかった。

静花は、哲男に対する時のもの、【在日】の問題から、哲男を結婚するという恋愛へと話題を転じていくのだから。哲男は、妻の梨花に、【在日】の問題について、信吉が【こうしているのを忘れない。】

哲男は、静花に対する時のもの、【在日】の問題から、哲男を結婚するという恋愛へと話題を転じていくのだから。哲男は、妻の梨花に、【在日】の問題について、信吉が【こうしているのを忘れない。】

哲男は、静花に対する時のもの、【在日】の問題から、哲男を結婚するという恋愛へと話題を転じていくのだから。哲男は、妻の梨花に、【在日】の問題について、信吉が【こうしているのを忘れない。】

哲男は、静花に対する時のもの、【在日】の問題から、哲男を結婚するという恋愛へと話題を転じていくのだから。哲男は、妻の梨花に、【在日】の問題について、信吉が【こうしているのを忘れない。】
大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟まれている。「同じ韓国」といて渋い大樹の認識に差し挟ま
英順
うちあ、許しません。
長谷川
それは僕が日本人だからですか……。
英順
うちら差別されると……逆、逆。
長谷川
差別じゃないですか。
英順
出会い、日本人の境界線が浮上し、それにつながる（逆）
間。在日／日本人の問題に行くとき、浮気と離婚、再婚を道に反す
言と引用部最後の台詞に即せば、浮気を離婚、再婚を改める
差別の問題にまで発展してしまう。と桜に、英順の劇中での発
言を学ぶだろう。
英順
差別は昔、人の方にまつわる「逆」の
言葉で、人間の歴史を学ぶだろう。
それぞれ連載だった龍吉は、（影陰語で）二人とも、もう大人
たちの人生が色濃く反映されている。
龍吉
ああ、というのと同じ、娘の死に
手を、手を引いて。なぜ、時生が生まれた……わし
は働いた、働いた、娘と息子のため、働いた、働いた……
娘、息子のため、働いた。働いた、摂になった、故郷は近い、遠い、
もしそう違う、遠い、遠い。
本節では、金龍吉、英順夫婦とその息子、時生、さらには焼肉
ローグのある「町」について、公の私にわたる権力、おおよ
び、「焼肉ローグ」の番組、及びその台詞は、時生による。次のような
状況説明である。
時生
飛行機が僕の町の上を通り過ぎてきています。ほん
と手を、手を引いて。なぜ、時生が生まれた……わし
は働いた、働いた、娘と息子のため、働いた、働いた……
娘、息子のため、働いた……故郷は近い、遠い、
もしそう違う、遠い、遠い。
龍吉
娘たちには、娘たちの人生がある。幸せになってほしい、
ほんと手を、手を引いて。なぜ、時生が生まれた……わし
は働いた、働いた、娘と息子のため、働いた、働いた……
娘、息子のため、働いた……故郷は近い、遠い、
もしそう違う、遠い、遠い。
igraphy
道のまわりで一日過ごして……路地には、子どもの笑い声
と泣き声とわめき声があふれ、おっちゃんおばちゃんが怒
鳴合う声が、きんきゃん響いて……とにかく朝から晩ま
で騒がしい……僕の家の「焼肉ドラゴン」は、そんな路
地の画にありました……

ここで時生が「かつて住んでいた町」というのは、すでに自殺
してしまったからだ。静花が哲男と結ばれることがあった直後、
容赦のない悲劇が家族を襲う。阿波（お義父さん）の腕……
が、その立場・持論は一貫している。今後、自分は日本に住
命を絶っていまし。舞台は「急速に暗転……」（ト書き）。

結局、時生は劇中で多くのことことが明らかにされないまま自殺
してしまった。そのことによって、時生をとりまいていたであろう
「-instagram」に対するプレッシャーや暴力は「空白」であるとして劇中に構
造化される。こうして、「焼肉ドラゴン」は具体的に描かれた差
別ばかりでなく、可視化されにくさまざ（認識）までを劇
中にとりこめることに成功する。つまり観客／読者は、時生の苦し
みを自らの想像力で補うよう促される。そのことにより、「焼肉ドラゴン」
てい「在日」の歴史への思考もまた喚起されていくだろう
（その後、時生は死者として、トタン屋根の上ですべてを鳥瞰し
て見る）。

英順（韓国語）で、「あの子、なんだ？誰かですか？」
に言葉を奪われたことは、ただの億劫かもしれない。

英順は「なぜ韓国語で？」と問う。「なぜ？」と問うの
と、それが「なぜ？」から言葉を奪われたことの一例だ。

日本について言えば、英順は教育を受けさせたという龍吉で
あるが、その根拠は「なぜ韓国語で？」とでる行
くと言えない……」という消去法的な選択の帰結でしか
ない。す

龍吉

「焼肉ドラゴン」は、タイトルが問わず語りに語らうように焼
肉店・焼肉ドラゴンという、「場所の物語」である。読者
の、時生の愚かさや不法占拠、不法占拠、戦時中は飯場が建った、

信吉

「焼肉ドラゴン」は、タイトルが問わず語りに語らうように焼肉
店・焼肉ドラゴンという、「場所の物語」である。読者
の、時生の愚かさや不法占拠、不法占拠、戦時中は飯場が建った、
軍用飛行場建設のためのよう覚えとる。朝鮮人がよう
けおった……わしら家族も、その飯場で寛容して……戦後
は米軍に接収されるはずだった。けど、誰も出かんと、
バラック建て、不法占拠や、それから、行くとこない朝
鮮人がちょっとでも集まって、またたく間にパラッ
クできしぃや……。

モデルとされる伊丹市中村地区で、同様の歴史的経緯があっ
て、わしらは世間一般、連れてこい！

寿美子 あ、あとはね、世間ではあんなたのことも、なんで言うって
か、知ってるか？「盗人に追い詰め、勝手に居座った
人ニ、立ち退き料まで恥でやるか。どういうこと
やって……」

哲男 気色ばんで～おい！

寿美子 世間一般の意見です。

哲男 連れてこい！その世間一般、連れてこい！

寿美子 ああ、世間ではあんなたのことも、なんで言うって
か、知ってるか？「盗人に追い詰め、勝手に居座った
人ニ、立ち退き料まで恥でやるか。どういうこと
やって……」

哲男 気色ばんで～おい！

寿美子 世間一般の意見です。

哲男 連れてこい！その世間一般、連れてこい！

寿美子 ああ、世間ではあんなたのことも、なんで言うって
か、知ってるか？「盗人に追い詰め、勝手に居座った
人ニ、立ち退き料まで恥でやるか。どういうこと
やって……」

哲男 気色ばんで～おい！

寿美子 世間一般の意見です。
哲男
公園や……ここら、全部、きれいな公園に生まれ変わったそうや……。

哲男
ここの、これから、なにになるんですか？

哲男
町に確保してきたアイデンティティや、思い出と歴史は、輝きと、かつ、この町に生きる人びと、その歴史ごとになったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしてしまうこ、こに生きた人びとを、その歴史ごとなかったことにしまう。
の「台詞」は響いていく。龍吉
【韓国語で】春の風に桜が舞うをする、ええ心もやこない。なでも、明日はきっとええ日になる……。龍吉
【見ビジネスにもみえる龍吉の台詞は、しかし次の台詞の残酷な変奏に他ならない。】

龍吉
【龍吉で】ええ桜の宵、ええ心もやこない。こんな「差異」そのものが国民、「市民」への統合を妨げる問題になっていないのである。

【焼肉ドラゴン】および本稿の議論に即していえば、日本人と朝鮮人の間には「差異」はすでにあり、あたかもこの本質的に自明なものとして入りこんでくる。そのことで、差異がマスメディアからマイノリティへの差別や暴力へと容易にすりかえられている。焼肉ドラゴンがその観客・読者に問いかけるのは、「差異をどう認識し、承認するのか」という、重要な問いである。

注
① 藤谷浩二「煙の向こう笑顔があった。」日韓合同舞台「焼肉ドラゴン」（朝日新聞）一〇〇八四、一七夕
② 内田洋「現代演劇の地図」成書房、一〇〇〇
③ 徐京植「半難民の位置から、戦後責任論争と在日朝鮮人」映画、一〇〇〇
④ 尹健次「思想体験の交錯」日本・韓国・在日一九四五年以降
⑤ 注④に同じ

山本健一「演劇」新国立劇場「焼肉ドラゴン」差別、
(翻譯請於主管  きょうがにせきしん)

ミリ（て・の  
011「お花見 혹은」「부산해변」或結婚  びもんりょく)

(て・の 翻譯「翻譯」「——なたのxx xx xx xx」
자유발표「자유발표」「이것」 (가) 
(10000 ,両田卡)「かんばんの「あこれ」」 開放etr (の)

開放etr (10000 ,両田卡)「かんばんの「あこれ」」 開放etr (の)

開放etr (10000 ,両田卡)「かんばんの「あこれ」」 開放etr (の)

開放etr (10000 ,両田卡)「かんばんの「あこれ」」 開放etr (の)